

VIEW

社員の希望を無視した転勤発令！！

会社は社員の希望を優先すべきだ！

会社は、1月25日に2月1日付の転勤者に事前発令を行いました。

転勤者は、若手社員から年配の社員まで5名いましたが、その中の転勤者には転勤希望を出していない人がいました。若手社員の中には、交番検査車両所に慣れてこれかという時の転勤です。また、55歳を過ぎて60歳の定年を前にしたベテラン社員の転勤は本当に必要があるのでしょうか。しかも日勤勤務から仕業検査車両所への泊まり勤務は無理があります。さらに、名古屋車両所への転勤者は、当然希望もしていないのに大阪から名古屋へ突然転勤を言われました。

大交両所長は、転勤理由について「総合的な判断」と言っていますが、何が「総合的な判断」なのでしょう。会社は「転勤希望」を考慮せず恣意的な判断で転勤発令を行っているのではないかと疑わざるをえないのです。

転勤を希望している社員は、多くいます。その中でも十数年、名古屋から大阪へ通勤を余儀なくされている社員がいます。当然、名古屋車両所への転勤希望を出し続けていますが希望はかっていません。転勤希望は、毎年調査票に書いて提出していますが、無視され続けています。その一方で、希望していない社員を大阪から名古屋へ転勤させたのです。

会社が決めたことには、不満を言わずに従えということは、「イエスマン」としての社員化の一つの現象です。

私たちJR東海労大交両分会は、今回の転勤は希望を無視した形での発令行為であり、絶対に許すことはできません。転勤希望がかなうような職場にするためにみんなで声を上げていきましょう。